

オオサキワンダーミュージアム 人と大自然の青空博物館

vol.39

宮城県農業大学校講義で世界農業遺産「大崎耕土」を学びました！

農政企画課世界農業遺産未来戦略室 ☎23-2281

5月9日に、宮城県農業大学校の1年生43人が、世界農業遺産「大崎耕土」について学びました。

講師には、宮城大学の郷古雅春教授を招き、実際に大堰頭首工や内川を見学しながら、歴史や役割などについて説明を受けました。

郷古教授は、「地域で行う河川の草刈りなど、当たり前に行っていたことが、実は重要な役割を果たしている。地域で守り続けるのは大変なこと」と話していました。学生たちは、歴史に思いをはせながら講義を受け、「大崎耕土」の巧みな水管理システムの重要性について学んだ日でした。



▲大堰頭首工の見学

ちおこらむ 地域おこし協力隊コラム

政策課地方創生担当 ☎23-2129

Vol.2

デジタル戦略課のちおこ 富澤です！

今日は、デジタル戦略課のちおこ、富澤の活動を紹介します！

現在、スマートフォンの操作に不安を感じている市民向けに、「スマホブートキャンプOsaki」というスマホ教室を開催しています。

今年度からは、スマホを活用して、豊かに快適に生活する方法を、市民の皆さんと研究する「スマホライフLab.Osaki」という企画もスタートする予定です。併せて、「スマホリーダー」として活躍してくれる人も募集いたします！詳細は、18ページのくらしの情報を見てください。

任期中の目標は、未来の大崎市がもっと住みよい街になっていくよう、デジタル活用支援を通して、種まきをしていくことです。

どうぞよろしくお願いいたします！



▲積極的に質問をする参加者

大崎市公式SNS発信中です！

市公式Twitter・Facebookは、行政情報だけではなく、観光やイベント情報も盛り込み、充実した情報をお届けします。二次元コードから、登録をお願いします。



図書館の情報
を発信⇒



Twitter

男女共同参画相談室 With おおさきの情報を発信⇩



Facebook



Instagram



秘書広報課広報広聴担当 ☎23-5023

今月の表紙

5月28日、古川地域宮沢地区で、大崎の米『ささ結』ブランドコンソーシアムと、Date fm(株式会社エフエム仙台)の「Datefm SDGs ACTION」との共催により、ささ結の田植え体験会が行われました。

市内外から子どもや大人9組21人が参加し、坂井農産の皆さんの指導の下、泥の感触やカエル、タニシなどの生き物に歓声を上げながら、手植えで行う田植えを楽しみました。

また、田植えの後は4年ぶりに直会が開かれ、炊きたてのささ結のおにぎりや地場産野菜の漬物、純米大吟醸酒「ささ結」に舌鼓を打ち、秋の豊作を願いました。今年の秋には、稲刈り体験会も開催される予定です。



▲指導を受けながら、丁寧に植える参加者

ささ結は、今年60周年を迎えるササニシキの直系ブランド米で、デビュー9年目を迎えます。ササニシキのように、多くの人に愛され続ける米になってほしいですね。

広報おおさき7月号 2023 No.208

Main Contents

目次

- 04 安心して生活できる医療提供体制の確保に向けて
- 06 おおさき花火大会に思いを込めて
- 08 DiscoverOSAKI
- 09 OSAKI Culture
- 10 オオサキプレイガイド
- 12 新型コロナウイルスワクチン接種情報
- 13 くらしの情報
市職員を募集します ほか
- 24 子育て支援情報 ほか
- 26 相談コーナー
- 27 休日救急当番医 ほか
- 28 目で観る刀の教科書展が開催されました

先般、本市で「石巻新庄道路・新庄酒田道路」整備促進フォーラムが開催されました。沿線の市町村長・議員、商工団体、国や県関係者など総勢150人の熱い集いでした。

東北は豊かさ満載で、宝の宝庫です。かつて、マルコ・ポーロの東方見聞録に『黄金の国ジパング』として紹介されております。イザベラ・バードの日本奥地紀行では、『東洋のアルカディア・エデンの園』と絶賛されておりました。

そして今、地球温暖化・コロナ禍によって、東北は住みやすい地域、田園回帰の憧れの地になっております。渡り鳥の南限地「渡り鳥に選ばれた東北」でもあります。

パラダイムチェンジ、時は東北の時代を迎えております。

しかし、東北はその誇れる豊かさや宝をつなぐアクセス、道路が極めて脆弱です。東北はかつて「奥の細道」や「みちのく」と言われました。奥羽山脈に阻まれて「出

天地人

みちのくウエストライン

市長コラム

羽国「陸奥国」に分断されておりました。豪雪にも悩まされてきました。

『おくのほそ道』紀行文によると、松尾芭蕉も何度も道に迷っております。最近では、東日本大震災時、山形県側から物資を運んだトラックが、冬期間閉鎖のため引き返すというハプニングもありました。

道は、人と物、暮らしをつなぐとともに、災害時の支援道路でもあります。そのような道づくりの中でも、石巻港から酒田港までをつなぐみちのくウエストラインは、東北中央部の東西交通軸として、医療連携、農業・ものづくり振興、観光資源活用、災害時応援などで、連携効果が抜群であり、発展性のある路線です。

みちのくウエストラインを早期に整備し、東北新時代を拓いてまいりましょう。



大崎市長 伊藤康志